



江東区

面積	43.01km ²
世帯数	278,287世帯
人口	527,085人 (うち外国人)29,488人
予算	2,284億円
職員数	2,632人

歴史・見所・名所

「江東」の区名は、隅田川の東に位置する地理的な意味から名付けられたもので、江東の「江」は深川、「東」は城東の意味も含んでいます。古くは江戸時代から使用されており、広く隅田川の東部を指す意味もありました。

江戸時代までは東京湾に注ぐ河川のデルタ地帯の一部で、海面と散在する小島があるだけでしたが、徳川家康の入府後に埋め立てと開発が進みました。深川地区は、区内を縦横に走る掘割や河川を利用した木材・米・油問屋の町として栄え、江戸市民の遊興地としてもにぎわいました。城東地区は、江戸近郊の農地として、野菜類を江戸市民に供給し早くから促成栽培が行われていました。また、江戸近郊の行楽地としても知られていました。

明治時代になると、広い土地と水運を利用した東京の工業地帯として発展し、昭和22(1947)年に深川・城東の2区が合併して、現在の江東区が生まれました。

概要

【区の地理】

江東区は、東に荒川、西に隅田川が流れ、南は東京湾に面しています。また、内部河川や運河が縦横に走っており、まさに「水彩都市」の名にふさわしいまちです。

【人口推移】

江東区の人口は、平成10(1998)年より増え続け、現在も人口増加の傾向は続いています。区南部地域を中心とした大規模集合住宅の建設に伴う社会増や、外国人の増加が特徴的です。

【区の特性・特徴】

江東区には運河や内部河川が数多くあり、水辺と緑が創り出す美しい景観が大きな魅力の一つとなっています。また、東京湾に面する区南部地域に、臨海副都心などの広大な開発地を有していることも特徴的です。

さらに、江戸切子や木場の角乗、深川八幡祭りなど江戸の歴史・文化や人情味あふれる下町情緒が色濃く残る一方で、臨海部においては東京の新しい顔といえる豊洲や有明といったまちの開発が着実に進められています。平成30(2018)年に豊洲市場が開場したほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、多くの競技会場が臨海部に整備されるなど、伝統と未来の両面を活かしながら発展を続けていることも江東区の大きな特徴として挙げられます。

主要課題

令和2(2020)年3月、令和2(2020)年度から令和11(2029)年度までの



KOTO City in TOKYO

スポーツと人情が熱いまち 江東区
江東区ロゴマーク
全国から760作品もの応募のあった中から選ばれた新たなロゴマーク。ハートの形は、スポーツの感動や鼓動と江東区民の温かい人情(心)を同時に表しています。



発展する臨海部エリア
豊洲市場、東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場の整備など、発展を続ける臨海部エリア。



横十間川親水公園と船
豊かな水辺と緑に囲まれた水彩都市。みどりの中の都市「CITY IN THE GREEN」の実現を目指します。

10か年の区の取組みの方向性をまとめた羅針盤として、新たな長期計画を策定しました。

長期計画では、江東区のまちづくりに大きな影響を及ぼす政策的な課題として「重要課題」を設定したほか、重点的な取組みとして7つの「重点プロジェクト」を掲げ、施策を横断的に連携させながら着実に取り組んでいきます。

また、令和3(2021)年には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。開催の成果を一過性のもので終わらせることなく、区内に整備された競技施設を地域の発展に繋げるとともに、区民の心に残るレガシーの継承に取り組んでいきます。

【重要課題】

地下鉄8号線の延伸

区南北を結ぶ交通網の利便性向上につながる地下鉄8号線延伸について、国土交通大臣は東京メトロの鉄道事業許可申請に対し令和4(2022)年3月28日付で許可しました。区では沿線地域のまちづくりの検討を進め、整備効果を区全体に広めていく取組みを推進します。

【7つの重点プロジェクト】

重点1 水彩・環境都市づくり

区の特徴である水辺や緑を活かすとともに、環境施策を推進することで、持続可能な社会の構築を目指します。

重点2 未来を創るこどもを育むまちづくり

妊娠・出産期から就学後における、子育てや教育などの多様なニーズに切れ目なく対応することで、こどもたちが健やかに成長できる社会の構築を目指します。

重点3 地域の活力を生み出すまちづくり

にぎわいと活気にあふれた地域コミュニティ、地域経済の発展を目指します。

重点4 高齢者など誰もが支えあう社会づくり

人・地域がつながり、支えあいながら暮らすことができる環境を整備し、地域共生社会の実現を目指します。

重点5 防災都市江東戦略

首都直下地震や激甚化する風水害など、各種災害へのあらゆる事態を想定した防災体制の整備を図り、防災都市江東の実現を目指します。

重点6 オリンピック・パラリンピックレガシーの継承

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成果を江東区全体に波及させ、スポーツ等を通じて、誰もが健康で生き生きと暮らせる社会を目指します。

重点7 臨海部のまちづくり

広大な水辺・緑やスポーツ・観光等を通じ、ベイエリアの魅力を最大限に活かしたまちづくりを推進します。

将来展望

本区の人口は増加を続け、令和4(2022)年には約53万人の都市になるという著しい発展を遂げ、未来への限りない可能性を秘めたポテンシャルの高いまちとしての地位を築きあげてきました。一方で、社会の変化は一層加速し、超高齢化やグローバル化、価値観の多様化や情報通信技術の進展、また、多発する地震や水害等の自然災害への対応など、未来を見据えた区の取組みが一層重要となっています。

江東区は、安全をしっかりと確立した上で、区民の誰もが幸せや心のゆとりを感じる時間や場所がまちの至る所にあり、ともに支えあい、生き生きと暮らし、安心してそれぞれの可能性にチャレンジできるような、新たなまちづくりを進めていきます。



深川八幡祭

江戸三大祭りのひとつ。伝統的な「フッショイ」の掛け声と別名「水かけ祭」の名のとおり、沿道の観衆から担ぎ手に清めの水が浴びせられる様は圧巻です。



子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターは、あそび場の開放、子育て相談、一時保育などさまざまなサービスを提供する子育て支援施設で、23区最多の8か所設置しています。



スケートボードパーク

スケートボードを、マナーを守りながらスポーツとして自由に楽しんでいたために、初・中級者用のスケートボードパークを夢の島総合運動場内に整備し、令和4(2022)年11月にオープンしました。